

同和問題啓発強調月間行事

☎ 人権・同和对策課 ☎ 22-7764

私たちの日常の意識や行動の積み重ねは、人権尊重の社会の実現に近づく確かな原動力になります。ぜひこの機会に人権感覚を培い、あらゆる差別の解消につなげていきましょう。

【街頭啓発】

日時 ▶ 7月2日 17時～

場所 ▶ スーパー川食、金田駅前(商店街)、日王の湯、ふじ湯の里、方城支所前バイパス周辺

※ 啓発タオルと啓発チラシを配布。

【人権講演会】 参加無料

日時 ▶ 7月24日 18時30分開場/19時開演

場所 ▶ 地域交流センター(伊方4478番地1)

テーマ ▶ 視点を変えて見る人権問題



講師 ▶ ダニエロ・ツヨシさん
(パーカッション奏者)

ブラジル出身。日本とブラジルのダブル。11歳から日本に移り住み、19歳で和太鼓奏者・藤慶哉氏に師事。現在、アフリカ民族打楽器「ジャンベ」奏者として活動する傍ら、全国の小中学校などで日本や海外での生活・音楽との出会いの中で感じた人権についての講演を行う。

【同和問題啓発強調月間講演会(県主催)】 参加無料

日時 ▶ 7月19日 12時30分開場/13時30分開演

場所 ▶ 春日市クローバープラザ

- 1部 講演「人権にわか」
深川 弘輝さん(素人にわか劇団「深川一座」)
- 2部 映画上映「菜の花」
- 3部 講演「子どもたちに学んだ人権」
林 由紀子さん(毎日新聞 大阪社会部記者)

◎ 福智町スローガン

人権のまちづくりは 私たちの手で

7月は同和問題啓発強調月間です。

「好きな人と結婚し、家庭を築きたい」「自分の能力を発揮して働きたい」など、わたしたちが抱く願いは、人が生まれながらに持っている権利「基本的人権」として日本国憲法で保障されています。しかしそんな願いが、依然として偏見や間違った認識によって理不尽に傷つけられています。

同和問題とは、同和地区出身というだけで、「結婚の自由」や「職業選択の自由」といった誰もが平等に持っているはずの権利が不当に侵されている、わが国特有の人権問題です。福智町では同和問題啓発強調月間の7月にあわせ、講演会をはじめ、街頭啓発や企業訪問を行い、差別の解消に向けた啓発活動を行います。

差別は見ようとしなければ見えません。わたしたち一人ひとりが、この問題を自分自身の問題として真剣に受け止め、互いを尊重し、認め合う仲間になってこそ、解決に向かって大きく前進します。あらゆる差別の解消のため、この機会に人権について深く考えてみませんか。

福智の風

▶ 今月から広報ふくちも新体制でスタート。主担当として挑んだ今号でしたが、教えられる立場から牽引する立場へ変わると、なかなかスムーズに進まず、今までの努力不足を痛感…。至らぬところも多いとは思いますが、「読んでいただける紙面」を目指し、2人のベストを尽くして頑張りますので、新生広報ふくちをこれからもよろしくをお願いします。(相原)

▶ 6月から広報担当になりました。配属されてからずっと、記事の文章を考えるのに頭を抱えた日々でした。写真撮影も難しく、趣味の撮影とは違ったルールに戸惑うばかり。不安もありますが新しい発見もあり、新鮮な気持ちで仕事に取り組んでいます。これから少しでも良い広報誌をお届けできるよう頑張りますので、よろしくをお願いします。(荒牧)

写真が語る
な丸の 写真館

田植えに欠かせぬ蓑笠姿
提供者 ● 木村 美和子さん
撮影日 ● 昭和10年頃

機械がなかった時代、一家総出の一大行事だった田植え。急な雨に備えて、蓑笠姿で水田に入り、一列に並んで苗を植える風景は、いまでは見られない梅雨時期の風物詩でした。

昔の写真を探しています！
☎ 総務課広報・広聴係
☎ 22-0555

赤池隣保館句会
夏蝶の舞ふ紺碧の空自在
万緑に凭れて尽きぬ立話
平凡でい、が口癖胡瓜もみ
梅雨明や孫との別れ島を發つ
十葉の花の白さにある孤独
神苑の青葉の風の中に句碑
初蟬や雨の合間を惜しまずに
愛犬の検診上々露涼し
吹き抜けたのシャトルバス行く薫風裡
緑陰の風に押さる、車椅子

池田 一歩選
丸山 鈴子
熊谷カツミ
吉田 弘
千手 弘子
大久保幸子
小場 妙子
水上 翠人
石井 恵子
米原ふさ枝
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室
裸婦像の若さは永久に新樹光
明易し同窓会の雑魚寝かな
貸店舗借り手は燕子育て中
一病と一生懸命生きて夏
山里は朝焼色に目覚めけり
修験者の法螺が先達山開
初鯉ひときは高く競られけり
神の山雲糊引きて夏に入る
今もなほ川筋氣質川渡祭
老鶯の声に目覚めて旅つづく

岩井 鬼童選
建部三由紀
今井三千代
長副美恵子
仲谷ひろえ
西田 真美
松岡 蔦枝
小川 雪
桂 啓子
岩井ひさ幸
山本 空木

方城句会
きらめきの水や若葉の上高地
万緑や再会約す手の力
新緑のマイナスイオン瀬音聞く
初枇杷を姉に届けし文添えて
山笠の深き谷聞えこの花
紫陽花の季節楽しむ散歩かな
菓子器にもそれらしき物業平忌
渡す手の裏まで透きぬ螢の火
又来いと告げているかに時鳥

池田 一歩選
有川 信子
尾崎 和子
木村 誠一
倉石嘉代子
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冴子
藤井耿之介
渡邊 一枝

四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

ヒマラヤの麓を故郷にもつといふ十葉皓し水無月の庭
青空に木々の新緑かがやきぬ葉陰にるるやホトトギス鳴く
バラ一輪吾の作りし壺に生けコーヒー飲みつつジャズをききたり
水張田の広ごる山里蝶の舞う畑は今し麦秋のとき
風に舞う梅の花弁庭石に水玉模様を描くがに散る
真夜中に子ら帰省して満天の星久びさに眺められたり
ハイカラとふ「明治」の影を偲びつつアイス手にして「馬車道」歩く
撞き初めの鐘の音入りゆく木の間より黄蝶出でてきて鐘楼に舞ふ

三村 和子
白石 信子
越智 早苗
白石 清和
福田キヨ子
桑野 昭子
村上 美幸
福田 昌

ともしび短歌会短歌詠草